

## ルムシロ

以上のような特徴を知っておけば、茎を調べることで種の判定ができるわけである。

なお、この方法は雑種の同定にもたいへん有効である。その1例をあげておこう。

## 7. アイノコヒルムシロ

アイノコヒルムシロは、ヒルムシロとササバモの雑種として、三木茂博士により報告されたものである。全国的な分布実態についてはまだよくわからないが、現在、標本によってその分布が裏付けられているのは、近畿、中国、四国地方だけである。

この雑種はヒルムシロと似た浮葉と、ササバモに似た沈水葉をもつとされる。しかし、ヒルムシロの沈水葉もササバモに似ているので(日頃からこれらの植物を注意深く観察しておられる方には識別可能だろうが)、この説明がどこまで有効か疑問である。本来、沈水性の植物であるササバモは浮葉をつくることがあるので、これとの区別も必要である。

花があれば、ササバモとの区別はすぐにつく。ササバモのめしべが4コなのに対し、アイノコヒルムシロでは1~3コだからである。この花の特徴はヒルムシロと同じであるから、次にその区別が問題となってくる。三木茂博士は、アイノコヒルムシロは結実しないと書いておられる。しかし、私が調べた例ではふつうに結実しているものもあった。したがって結実するか否かでヒルムシロとアイノコヒルムシロを識別するのは危険である(この問題については、さらに詳しく調査する必要がある)。さて、そうなるとアイノコヒルムシロであるという判

定は、どの形質が決め手になるのであろうか。今の所、最も確かな判定法は茎の断面を見ることである。中心柱における維管束の分布はヒルムシロと差がないが、アイノコヒルムシロの皮層には、点々と維管束が分布するのである。ヒルムシロにしては沈水葉がやや硬い感じがする、という植物に出会えば、アイノコヒルムシロの可能性はある。茎の断面を調べればいずれか判定できる。

このように解剖学的特徴が同定の決め手になる例は、ほかにもいくつかある。

## \* \*

小型の浮葉をもつホソバミズヒキモとコバノヒルムシロは「狭葉性の種類」を扱うときに取りあげる予定である。

## 参考文献

- 三木 茂. 1934. 千島のヒルムシロ (*Potamogeton*) 属に就いて. 陸水雑. 3: 122—128.  
 ————. 1937. 山城水草誌. 京都府史蹟名勝天然記念物調査報告 18: 1—127.  
 角野康郎. 1981. 日本のヒルムシロ属. 植物と自然. 15 (9): 4—9.  
 ————. 1982. 日本産ヒルムシロ属の分布と生育場所 (英文). 植物学雑誌 95: 63—76.  
 ————. 1984. 日本産ヒルムシロ属の比較生態 特に生育型と生活環について (英文). 日生態誌. 34 (印刷中).  
 D.H.Les. 1983. Taxonomic implications of aneuploidy and polyploidy in *Potamogeton* (*Potamogetonaceae*). *Rhodora* 85: 301—323.

## ○文献リスト 補遺&lt;1976—1982&gt;

- 祝原道衛. 1982. オニバス. 筑豊博物 No.27: 21—25.  
 岡本将宏・小林正幸・西川吉和・長谷川清善・大橋恭一  
 1982. 農業排水中におけるホテイアオイの生育と水質浄化について. 滋賀県農業試験場研究報告 24: 51—64.  
 竺 文彦・勝矢淳雄. 1982. ホテイアオイ (*Eichhornia crassipes* (Mart.) Solms) を用いた廃水処理について(1), (2). 環境技術 11 (3): 215—221. (4): 287—292  
 辻誠一郎. 1979. 日本産タヌキモ属花粉化石の再検討.

第四紀研究 18: 39—40 + Plate.

- 本村輝正・立小野主信・鮫島幸司. 1982. ホテイアオイ施用による土壌の生産力増強(1), (2) 農業および園芸 47: 450—454, 554—558.  
 真中多喜夫・染谷一郎. 1981. ソウギョによる農業用排水路の雑草防除. 雑草とその防除(18): 74—78.  
 山口益郎. 1982. ラン藻およびアカウキクサ利用の可能性. 農業および園芸 57: 159—164.  
 Ohsuka, K. & A. Inoue. 1979. Identification of myosin in a flowering plant, *Egeria densa*. J. Biochem. 85: 375—378.